

今回は、段落の関係について学習します。
文章は読む人がわかりやすいように、内容によっていくつかのまとまりに分かれています。一度に文章全部を理解しようとするは大変ですが、一つ一つのまとまり(＝段落)ごとに内容を読み取っていくと、全体の内容がわかるようになってきています。

●段落のつらな方

- (1) 形式段落：文章中の小さな内容のまとまり。
一字分下げて書き始められている。
- (2) 意味段落：形式段落を話題ごとにまとめたもの。
いくつかの形式段落からできています。

では、段落にはどんなはたらきがあるのかを確認しましょう。

〈段落のはたらき〉

- (1) 話題を示す。
- (2) それまでの内容をまとめる。
- (3) 具体例を挙げる。＝「たとえば」などで始まることが多い。
- (4) 理由を説明する。＝「なぜなら」などで始まることが多い。
- (5) 反対の内容を述べる。＝「しかし」などで始まることが多い。
- (6) 同じ内容を別の言い方で説明する。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ① 「みつともない」と言われたら、人はどう思うか。
- ② 「みつともない」は「見苦しい・体裁が悪い」といった意味であるから、たとえば自分が転んだときなどに言われたら、ひどくいやな気持ちができるだろう。基本的にこれは相手を受けず言葉である。
- ③ しかし、いつもは仕事に厳しい社長が自宅でおさない孫を相手ににこにこしている時、奥様が「あらあら、いつもはしかめつっらの社長さんが、なんてみつともないお顔かしら。」と言ったとしたらどうだろう。社長はおこるだろうか。
- ④ 奥様は社長の孫をみつめる優しい様子と、日ごろの厳しい様子との落差を親しみをこめて「みつともない」と表現しており、言われた方の社長も孫をいとしく思う感情で心がいっぱいであり、「みつともない」と言われて不愉快に思うことはないだろう。
- ⑤ ここに言葉というものの本質がある。言葉の意味は使われる場面によって、受け取られ方が変わることもあるのだ。
- ⑥ また、場面と同時に会話する両者の関係によっても変わってくる。同じ場面だとしても、家族である奥様ではなく、部下が「みつともない」と言えば、聞こえ方はちがうはずだ。
- ⑦ 言葉は生き物だ。本来の意味を十分理解したうえで、場面、相手との関係に注意して使いたいものである。

- ① 今世界には紛争の起きている地域がいくつもあります。部族同士の対立であったり、政府とそれに対抗する勢力との争いであったり、事情はさまざまですが、一般市民がまきこまれることも多く、一刻も早い解決が望まれるのが現状です。
- ② わたしたちはこれを遠くからながめています。
- ③ しかし、これは他人事なのでしょいか。わたしたちは石油をはじめとするさまざまなものを海外から輸入していますが、それらが争いのための武器を買う資金源となるケースもあるのです。
- ④ 外国のことは知らないという他人事としてとらえるのではなく、まずは自分との関係を考えてみませんか。

この文章では、①②で紛争が起きていることとそれに対するわたしたちの態度、③でそれらと反対の関係にある筆者の考え、④で全体のまとめとなる主張を述べています。

段落の関係を理解すると、自分で文章の意味段落に分けられるね。それができたら、文章全体が伝えようとしていることもつかみやすくなるよ。



- ① 問題文を二つに分けた場合、後半はどこから始まりますか。後半の始まりの段落番号を書きなさい。

- ② ⑤段落はどのようなはたらきをしていますか。次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 話題を示すはたらき。
- イ 反対の内容を挙げて説明するはたらき。
- ウ 具体的な内容をまとめるはたらき。
- エ 理由を説明するはたらき。

これができるかな？

筆者の最も伝えたいことがどの段落にあるかをさがそう！社長の具体例(エピソード)からどんなことがわかるかを考えてみるといいよ！



ポイント

文の組み立てには、次の三つの種類があります。

・単文……主語と述語の関係が一組みだけの文。

例 星が きらきらと かがやく。
〔主語〕 星が 〔述語〕 かがやく。

・重文……主語と述語の関係が二組み以上あり、それらが対等にならない文。

例 わたしは 本を 読み、弟は テレビを 見る。
〔主語〕 わたしは 〔述語〕 本を 読み、 〔主語〕 弟は 〔述語〕 テレビを 見る。

・複文……主語と述語の関係が二組み以上あり、それらが意味のうえで深いつながりをもっている文。

例 自転車が こわれたが、ぼくは 自分で 直した。
〔主語〕 自転車が 〔述語〕 こわれたが、 〔主語〕 ぼくは 〔述語〕 自分で 直した。

例 ここは、わたしが 春から 通う 中学校だ。
〔主語〕 ここは、 〔主語〕 わたしが 〔述語〕 春から 通う、 〔述語〕 中学校だ。

2 次の1〜3の文は複文です。それぞれの主語と述語の組み合わせを記号で書きなさい。(主語・述語が両方できて各6点)

例 ア 父は、イ 日が、ウ のぼる、エ 前に、オ 家を、カ 出る。
〔主語〕 ア 〔述語〕 カ 〔主語〕 イ 〔述語〕 ウ

1 ア わたしは、イ 雨の、ウ ぶる、エ 休日に、オ 自分の、カ 部屋で、キ のんびり、ク 読書する。

主語 () 主語 () 主語 () 主語 ()
述語 () 述語 () 述語 () 述語 ()

2 ア 近所の、イ 公園は、ウ 見事な、エ 桜が、オ さく、カ 時期に、キ 大変、ク にぎわう。

主語 () 主語 () 主語 () 主語 ()
述語 () 述語 () 述語 () 述語 ()

3 ア ぼくの、イ 住む、ウ 町は、エ 毎年、オ 旅行者が、カ 多く、キ おとずれる、ク 観光地だ。

主語 () 主語 () 主語 () 主語 ()
述語 () 述語 () 述語 () 述語 ()

1 次の文の主語にあたる言葉を [] に書きなさい。(各5点)

1 ぼくの家のがんかんに、つばめが巣を作った。

[]

2 小さな妹でも、これくらいの問題はすぐに解ける。

[]

3 明日にはきっとさくだろう、美しい花が。

[]

4 二人だけのひみつの場所を、ぼくにだまって他の人に教えるのはおかしい。

[]

3 次の文の組み立てと同じ種類のものをおとのア〜ウの中から一つずつ選び、() に記号を書きなさい。(各6点)

1 馬は大地をかけ回り、鳥は空に飛び立った。

()

2 母が出かけたため、父が夕飯を作る。

()

3 京都の古い町なみは、とても美しい。

()

ア この小説は、ぼくが読んだ本の中で一番おもしろい。
イ 緑黄色野菜は体の調子を整え、米は力のもととなる。
ウ 地球は、八つの星の中で太陽から三番目に近い星だ。

4 次の文の主語と述語が正しく対応するように、 [] の部分を書き直しなさい。(各10点)

1 わたしの日課は、毎朝あさがおに水をやっています。

[]

2 ぼくは友人の夢を聞いて、かれの考えはすばらしいです。

[]

今回は、詩について学習します。詩とは、作者の感動を印象的な言葉や表現技法を用いて伝える文章です。ここでは、詩に用いられる表現技法について学習しましょう。

●主な詩の表現技法

1 **比喩**…ある物事を、よく似たものや関係するものにたとえて表現すること。比喩には次の三種類がある。

・直喩…「さようだ」「さみたいな」などの言葉を用いて表すたとえ。

・**例** もみじのような手／ほっぺがおもちみたいだ。

・**暗喩**（隠喩）…「さようだ」「さみたいな」などの言葉を用い

ないで表すたとえ。

・**例** 母はわが家の太陽だ／りんごのほっぺ

・**擬人法**…人間でないものを人間に見立てて表すたとえ。

・**例** せんたく物が風にゆられてダンスする

比喩は、たとえられているものの特徴をおさえるといいよ。たとえは「もみじ」なら、その形や大きさ、色などを思いうかべてね。



2 **倒置法**…言葉の順序を入れかえる方法。意味を強めたり、調子を整えたりする。

・**例** かけてゆけ、子どもたちよ。

3 **反復法**…同じ言葉やよく似た言葉をくり返す方法。意味を強めたり、調子を整えたりする。

・**例** 飛べ、飛べ。高く、高く。

4 **対句法**…反対の言葉や対になる言葉をならべる方法。対比を表現したり、調子を整えたりする。

・**例** 右の手には希望、左の手には勇氣。

5 **体言止め**（名詞止め）…文の終わりを体言（名詞）で止める方法。意味を強めたり、味わいを残したりする。

・**例** 聞こえてくるのは、波の音。

6 **よびかけ**…文をよびかけの形にする方法。

・**例** 空を飛ぶ鳥よ！

7 **省略法**…あとに続くはずの言葉を省く方法。味わいを残す。

・**例** ふりかえると足あとが。

このほかにも、空白の行を入れて「連」を作ったり、自由に改行するなど、詩の表現上のくふうはたくさんあります。作者の感動の中心をとらえながら、独特な表現を味わいましょう。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

リレー選手

買い物についていったスパーで

あるとき急にこわくなったんだ

このお魚もお肉も

ちよつと前はみんな生きていたんだって

お母さんに言ったら

①「命をもらって生きているのよ」って

「わたしたちは責任重大ね」って

足のおそいぼくは

リレー選手になったことはないけど

そうかぼくは

リレー選手なのかもしれない

② もらったバトンを

落とさないように

転ばないように

にぎりしめて走る

リレー選手なのかもしれない

1 ——— ①で用いられている表現技法はどれですか。次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 体言止め イ よびかけ

ウ 省略法 エ 倒置法

2 ——— ②とありますが、「もらったバトンを」「にぎりしめて走る／リレー選手」とはどのようなことをたとえているのですか。次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア いくら足がおそくても苦手なことからにげずに努力を重ね、リレー選手を目指すこと。

イ 人間が動物の命をぎせいにしていることを反省し、魚や肉を食べないようにすること。

ウ 家族や学校の友達とたくさん話し合うことで思いをくみとり、周りの人を大切にすること。

エ 食えることをおして魚や家畜の命を引きつぎ、それらの命の分までけんめいに生きること。

これが
できると
かみかみ

「リレー」はどのような競技で、そのどのようなところが「お魚」や「お肉」と関係するのかわかえよう！



ポイント

言葉は、何を表しているか、どのようなはたらきをしているかによって、いくつかの種類に分けることができます。

また、言葉には、いつでも形が同じものと、使い方によって形が変わるものがあります。「話す」「話さ(ない)」「話し(ます)」などのように、あとに続く言葉によって言葉の形が変わることを「活用」といいます。

●名詞 (物やことからの名前を表す言葉)

- ・あとにどんな言葉が続いても形は変わりません。
- ・名詞にはいくつかの種類(普通名詞・固有名詞・数詞・代名詞)があります。人名や国名、数字なども名詞です。

・主語になることができます。

〔例〕本・動物・アメリカ・富士山・五本・わたし・それ

●動詞 (動作や存在などを表す言葉)

- ・あとに続く言葉によって、形が変わります。(活用する言葉)
- ・終止形(言い切り)は「ウ段」の音で終わります。

〔例〕歩く・学ぶ・起きる・植える・来る・勉強する

1 次の各組みの言葉の中で、ほかと言葉の種類がちがうものを一つずつ選び、○で囲みなさい。(各5点)

1 信じる おおげさだ ほがらかだ ゆるやかだ

2 うす暗い なつかしい あれ こわい

3 夏休み 遊園地 願い 正しい

4 運転する 明らかだ 思い出す 引く

2 次の文の——の言葉の種類が名詞ならア、動詞ならイ、形容詞ならウ、形容動詞ならエを()に書きなさい。(各4点)

1 タ焼けに () () () () () () () () () ()
そまる () () () () () () () () () ()
きれいな 海岸を () () () () () () () () () ()
ながめる。

2 ここは、 () () () () () () () () () ()
冬の () () () () () () () () () ()
寒さは () () () () () () () () () ()
きびしいが、夏には () () () () () () () () () ()

さわやかな () () () () () () () () () ()
風が () () () () () () () () () ()
ふく () () () () () () () () () ()
町だ。

●形容詞 (様子や性質を表す言葉)

・あとに続く言葉によって、形が変わります。(活用する言葉)

・終止形(言い切り)は「い」で終わります。

●形容動詞 (様子や性質を表す言葉)

・あとに続く言葉によって、形が変わります。(活用する言葉)

・終止形(言い切り)は「だ」で終わります。

●形が変わる (活用する) 言葉の例

未然形	動詞「書く」 書か(ない) 書こ(う)	形容詞「明るい」 明るかる(う)	形容動詞「清らかだ」 清らかだろ(う)
連用形	書き(ます) 書い(た)	明るかっ(た) 明るく(なる)	清らかだっ(た) 清らかで(ない) 清らかに(なる)
終止形	書く(。)	明るい(。)	清らかだ(。)
連体形	書く(とき)	明るい(とき)	清らかな(とき)
仮定形	書け(ば)	明るけれ(ば)	清らかなら(ば)
命令形	書け(。)		

3 次の文の——の言葉を、言い切りの形(終止形)に直して(各5点)

1 主役を見事に演じる。

2 敵は思ったより強かった。

4 次の言葉を()にあう形に活用させて、書きなさい。(各6点)

1 おだやかだ ↓ 友人は () 性格だ。

2 軽い ↓ もう少し () ば、運べる。

5 次の文の中から動詞をすべてぬき出し、言い切りの形(終止形)に直して()に書きなさい。(すべてできて10点)

・かれは、時間におくれずにむかえに来たようだ。